

表紙の由来「ユズリハ」(譲り葉)

ユズリハは、ユズリハ科の常緑高木です。
新しい葉が出たあとに、それを譲るように古い葉が
落葉することから、この名前が付けられました。
本書では、歯科医院経営において、新旧の世代が
交代し、絶えることなく続いていく意味を込めて、
このユズリハを表紙のデザインに採用いたしました。

はじめに

今年5月26日に行われた日本歯科医師会の定例記者会見で、3月末時点の会員の平均年齢が59歳一か月となったとの発表がありました。歯科医師の数は全体として10万人を超えておりますが、昨今の歯科医師抑制政策もあって高齢化が進んできているようです。

我々の資格は生涯資格であり、年齢で区切りがあるわけではありません。だからと言って、いつまでも診療を続けることができるわけではなく、地域における医療機関として、いつかは次へと承継していかなければならないわけです。

つまり、歯科医師としては生涯現役でも歯科医院としては有限であり、これまで通っていたいただいた患者さんのためにも、勤務してくれたスタッフのためにも、医院として継続されていくことが望ましいのです。しかし、これまで事例が少なかったこともあって、医院の承継をどのように進めていけばよいのか、というノウハウが十分に集められていないわけではありません。むしろ、ノウハウはないといっても言い過ぎではないかもしれません。

私自身も50歳を過ぎ、子供達の進路が歯学部ではないことから、将来医院をどのようにして継続していくか、いつから承継を準備し、実行していくのかについて考え始めました。いわゆる第三者承継については、それぞれの歯科医院において、親子承継や第三者承継、あるいは閉院など医院の進む道は異なりますが、その準備については早く始めれば始めるほど、自身の望む形に近づくと言えます。さらに、人生のエンディングにおいては、相続問題も絡んで参ります。ご自身のお考えをまとめつつ、専門家の意見を聞くことでその先の安心につながるものと考えております。この度、承継における考え方の一つとして本書を上梓させていただきました。また、専門家の窓口として「承継相談センター」についても全国に設置をさせていただいておりますので、お気軽にご相談ください。

平成28年11月

一般社団法人 日本歯科イノベーション協会 会長
医療法人社団 感・即・動 理事長

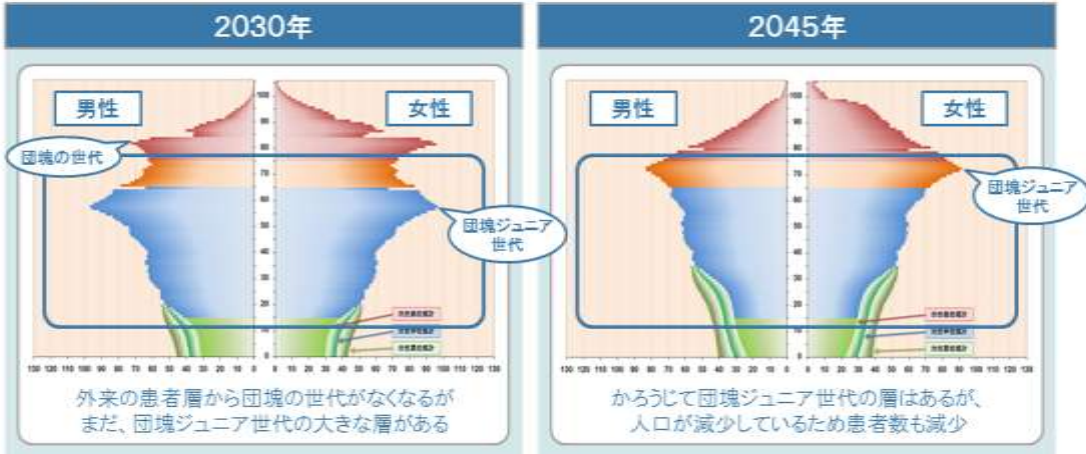
歯科医師 康本 征史

人口の減少による影響

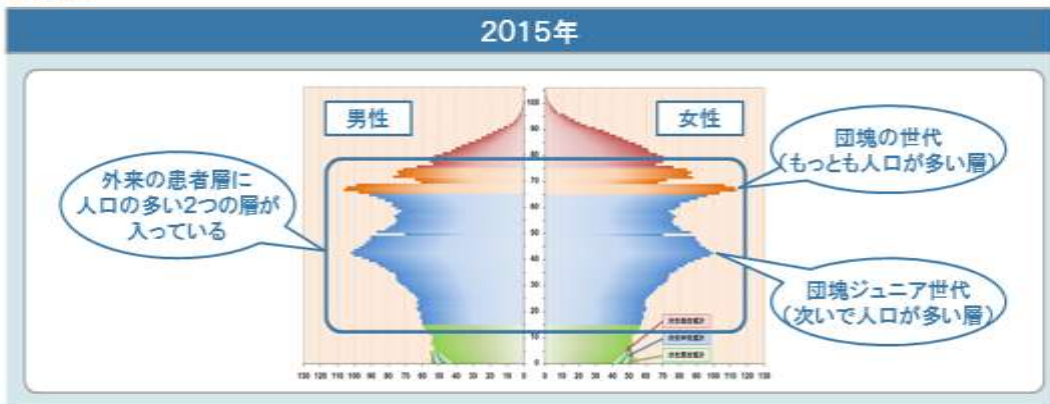
3

人口の減少による影響

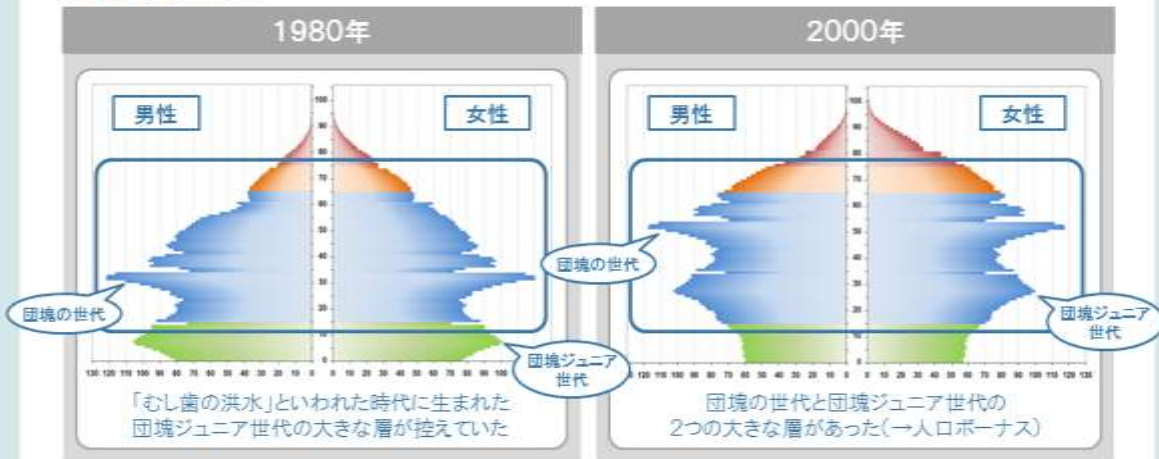
■これからの30年



■現在



■これまでの30年



※このページのグラフは、国立社会保障・人口問題研究所の人口ピラミッドデータを掲載しています。

これまで見てきた高齢化の進展に加え、出生率の低下による人口の減少が歯科医療に与える影響について考えてみましょう。

●これからの30年

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2015年の人口ピラミッドでは、団塊の世代が前期高齢者に入ったことで65歳から70歳の年齢層が最多となりました。

次いで多いのは、40歳から45歳の年齢層で、1971年から1974年までのベビーブームに生まれた「団塊ジュニア世代」となっています。

一方、歯科医院の来院患者の年齢層を見ると、65歳以上75歳未満が最も

多く、75歳以上から極端に減少することが厚生労働省のデータからもわかります。

こうしたことから、団塊の世代が後期高齢者に入る2025年ごろから、歯科医院に通院する患者数は今まで以上に減少していくことが予測されます。

さらに、2045年の人口ピラミッドでは、団塊ジュニア世代も後期高齢者になることになり、歯科医院の経営は、一層厳しい状況に置かれることは間違いありません。

もちろん、減少するのは外来の患者数なので、その分、在宅や施設に往診する機会が大幅に増えることが予想されています。医療や介護の保険制度は、そんな近未来にむけて改定されていくことでしょう。

したがって、これからの30年における歯科医院経営は、来院してくれる患者さんへの治療や健診だけでなく、院外での治療についても積極的に行っていかなければならないといえます。

●これまでの30年

歯科界にとっては黄金期といわれた、これまでの30年を振り返ってみます。1980年と2000年の人口ピラミッドを見ると、団塊の世代と団塊ジュニア世代の二つの大きな層が、歯科医院の主な患者層として常に存在していたことがわかります。

これは「人口ボーナス」といわれ、むし歯の疾患数が一人1本であっても、100人いれば100本分の、1000人いれば、1000本分の診療収入がありました。

ところが、人口の減少にともない、一人1本は変わらなくても疾患数全体で見ると診療収入は減ってしまうのです。ですから、歯科医院を承継するということは、これから先の30年間も歯科医院周囲の人口が大幅に減らないことが大前提となります。

特に親子継承の場合は、同じ場所で承継するかどうかを真剣に考える必要があります。

歯科医院の 何を引き継ぐのか

1

歯科医院の承継とは、具体的に何を引き継ぐことなのでしょう？

第2章では、世襲制で有名な政治家の「三バン」にならって、歯科医院の承継に必要な三つの大きな要素について考えてみましょう。

●選挙に勝つための「三バン」

政治家の世襲では、「地盤（ジバン）」「看板（カンバン）」「鞆（カバン）」の「三バン」を引き継ぐことが重要といわれています。

- ・「地盤（ジバン）」とは、選挙区内の支持者の組織力
 - ・「看板（カンバン）」とは、知名度
 - ・「鞆（カバン）」とは、選挙資金や集金力
- これは、日本の選挙における当落が

候補者本人の優れた政策や資質、能力だけでなく、この「三バン」に依存することが多いためです。

●歯科医院の「三バン」

これを歯科医院の場合で考えると、次のようになります。

- ・「地盤（ジバン）」とは、スタッフ・組織力
- ・「看板（カンバン）」とは、知名度・患者
- ・「鞆（カバン）」とは、設備・資金

まず一つ目の「地盤（ジバン）」は、「スタッフ」や「組織力」です。

なかでも、特に重要なのは歯科衛生士です。ところが、皆さんもよくご存じのように、現在、歯科衛生士の確保は非常に難しい状況になっています。

したがって、労働環境の整備を含めて、現在働いているスタッフの組織力をより高めた状態で次に引き継ぐことが重要になります。

二つ目の「看板（カンバン）」は、「知名度」や「来院している患者さん」です。

「あそこの歯医者さんは分かりやすく説明してくれるから安心だよ。」

「〇〇の治療だったらあの先生がいいわよ。」などの評判や認知度は、先代の院長に対する「知名度」となります。したがって、来院している患者さんの多くが院長だけに依存している場合は、次の世代に引き継ぐための対策が必要になります。

三つ目の「鞆（カバン）」は、「医院の設備」や「資金」となります。

近年は、インターネットの普及にともない、患者さんが複数の歯科医院を比較できるようになったため、少なくとも普及期に入った機器については、導入を検討する必要があります。

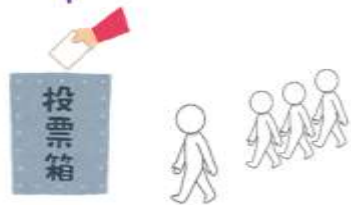
また、古くなってしまった設備のままでは、患者さんの印象が悪くなるだけでなく、承継にも悪影響が出ます。

このように、歯科医院の承継では、次の世代を見越して、歯科医院の「三バン」を引き継ぐことを考える必要があります。

歯科医院の何を引き継ぐのか

■選挙に勝つための「三バン」

ジバン(地盤)	カンバン(看板)	カバン(鞆)
<p>組織力</p>  <p>選挙区内における支持者の組織、団体</p>	<p>知名度</p>  <p>広く一般にその名が知られている</p>	<p>資金力</p>  <p>選挙資金がそれなりにある</p>



■歯科医院の「三バン」

ジバン(地盤)	カンバン(看板)	カバン(鞆)
<p>スタッフ・組織力</p>  <p>特に重要なのは歯科衛生士</p>	<p>知名度・患者さん</p>  <p>医院の評判や認知度、そして患者さん</p>	<p>設備・資金</p>  <p>次の世代でも活用できる設備</p>

